

社会福祉法人 京都光彩の会 光彩だより 令和2年 春号

巻頭言	...	1
特集記事	...	2 ~ 3
編集後記	...	4

「光彩だより」2020年春号 特別企画

- ・地域で働き暮らすために京都市朱雀工房の取り組み
- ・第5回グリーンカフェを開催しました！
- ・これからのグループホームに求められること

他 野地理事が精神保健福祉事業功労者として表彰！ 合唱団グラスが団員を募集！

巻頭言

対話を活発にして、
危機をチャンスに

脳は自然治癒力を持っているとされます。それを邪魔するのが心です。心は脳が休みたいと言っているのに警告を無視します。その行き着く先が精神の病です。脳と対話し、タイミング良くお風呂に入り森林浴し多様な人と対話ができる病気になるまで。ただし心に圧力をかけている社会の問題を看過してはなりません。利用者は「働くのが下手な人ではなく、休むのが下手な人」だと言われるゆえんです。今回の報酬改定は精神障害のことがまるつきり分かってない官僚の暴挙です。工賃連動、就労継続実績連動。とにかく「働かせよ」です。当法人も質の高い働きかけをしているにも拘わらず経営の苦境にあります。報酬は、利用者が休息タイミングを分けるようになること、それを周囲に伝えられること、気持ちのキャッチボールの対話ができる関係があること、役割・趣味・生活基盤の「生活の質」が向上すること、への働きかけと連動すべきです。当然、職員にもそれが求められます。H・S・サリバンは、職員の資質として、①相手の痛みが分かる、②シャイである、③裏表がない、④挫折体験・被差別体験をもつ、の4つを挙げました。ぜひ皆さんの対話の力で、利用者に労働を強いるだけの歪んだ事業所の方向性を改革し、危機をチャンスに変えていきましょう。

社会福祉法人 京都光彩の会

理事長 加藤 博史

Chapter. 1

地域で働き 暮らすために

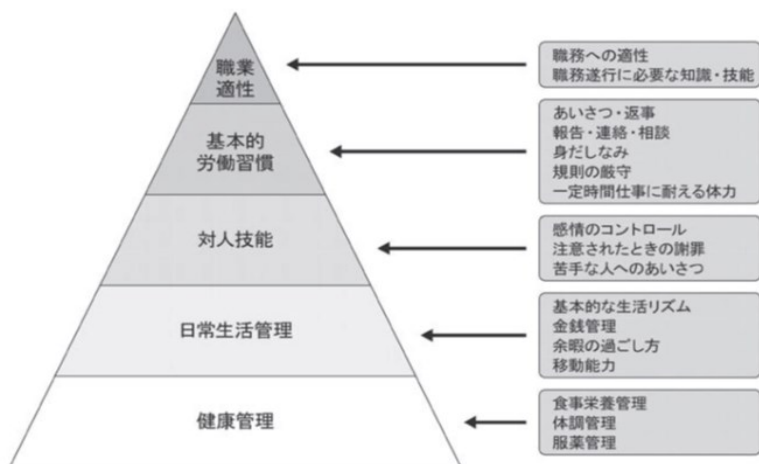
京都市朱雀工場の取り組み

昨年もたくさんの方が京都市朱雀工場に見学に来て下さいました。年齢はもちろん、それまでの歩みや事情もおひとりおひとり異なりますが、「働きたい」という思いは共通です。そして、働いた経験のある方からは「仕事が合わなかった」「自分に合う仕事を見つけない」というお話を伺うことが多いのですが、もう少し丁寧に確かめていくと、「休日に生活リズムが乱れ、休み明けに遅刻・欠勤を重ねてしまった」「受診や服薬を怠った」という言葉を聞くことが少なくありません。

私たちの事業所では、利用者の方に、集中力や持続力が必要な多様な所内作業のほか、施設外の作業、さらには地域の様々なイベントにも参加頂く他、SST (Social Skills Training) や就労支援プログラムを実施し、ハローワーク、障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、ジョブパーク、行政機関の方々など関係機関の皆さまのご支援を頂きながら、各種セミナーや企業見学や実習にも参加頂き、「職業

準備性」(下の図を職業準備性ピラミッドといいます)を高めて頂くための取り組みを進めています。ただ、私たちは、安定して就労するためには、直接、就労に係る支援だけでなく、健康管理や日常生活管理の重要性について、理解を深めて頂くことが非常に大切だと考え、そのための取り組みを積極的に進めています(ピラミッドの土台にあたる部分です)。

具体的には、毎日、終礼後に、その日の作業内容だけでなく、体調・服薬・睡眠の状況を確かめるための日報を記入頂くほか、午後の作業に先立って、一五分間のスロー筋トレを実施し、SFA (Social Functioning Ability、社会生活力) のプログラムでも、健康管理について理解を深めて頂くためのテーマ(セルフメディケーション)に力を入れていきます。さらに、外部講師を招いて、「やさしいヨガ」のプロ



(平成30年度 「就労支援ハンドブック」
独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構刊から引用)

Chapter.2

第5回 グリーンカフェを 開催しました！

統合失調症を抱えながら、地域との繋がりがなく孤立しがちになっている方々にとつて、大きな力になりえる「情報」や「仲間」と出会える場として継続的に開催している『統合失調症情報ステーション グリーンカフェ』。去る一月二十五日(土)に喫茶『ほっとはあと』西大路御池店にて開催しました。

当事者の方による進行のもと、最初にピアサポーターがリカバリーの体験談を話され、その話に呼応するように参加者の方も自分の思いを話して下さるなど、実体験に基づくリアルな話やご自身の想いを全体で共有する時間となりました。また、カフェタイムでは、当事者の方のピアノ演奏を聴きながらゆっくりコーヒーを味わい、最後は皆で歌う場面もありました。

後半の相談タイムでは、ピアサポーター、医師、作業療法士、訪問看護、就労支援関係者、家族会、相談事業所の相談員等が、参加

された方からのお話を伺いました。京都市内に限らず遠方から参加される方もいて、今回の相談を機に情報や支援機関などにつながる方もおられました。

回を重ねるごとに参加者が増え、関係者の輪が広がっています。まだまだ社会から孤立し情報を得られない方も少なくなく、いかに情報を届け、つながりをもっていたただけるかが課題になっています。今後も試行錯誤を繰り返しながら、皆が生きやすい社会づくりに協力していけたらと思います。

また次回の開催日時が決まりましたら、ホームページやポスターなどで広報しますので、ご興味のある方は是非ご連絡ください！



これからのグループホームに 求められるもの

グループホーム賀陽・山ノ内・光
田上 嘉之

グループホーム（以下GH）とは世話人や生活支援員から、必要な支援を受け、地域で暮らす場所であり、また一人一人が主體的な暮らしを実現できる場であること。そしてなにより自分の家であると言えます。京都光彩の会では、平成一年にGH賀陽が設立されました。平成一三年にGH山ノ内が、GH光が平成一七年に設立されて、現在一七名の入居者が住んでいます。

これまで五〇人以上の方に住んでいただきましたが、最近では精神科病院に入院されていた方が退院先としてGHを選ばれる方が多い傾向にあります。また入居の問い合わせも多岐にわたり、精神科病院や保健福祉センターをはじめ、支援学校や児童相談所などからも相談があります。

GHでも入居者一人ひとりに寄り添って支援を行っていくのですが、共

同生活ならではのメリツトとデメリットがあります。メリツトは同じ病気の苦しさを分かち合ったり、服薬を互いに声かけあったりする機会があります。

一方でプライバシーの配慮が十分にできなかったり、お互いの生活リズムの違いから、生活音を必要以上に意識したり、人間関係にわだかまりが生じたりする場合もあります。私たち職員はそのようなとき個別に話を聴いたり、ミーティングを開催するなどしてお互いの理解が引き出せるように関わっています。

グループホームを運営するなかで、取り組まねばならない課題は山積んでいます。ハード面の整備や人材確保はもちろんですが、高齢化する入居者の対策は最も大きな課題といえます。

時代とともにGHを取り巻く環境は大きく変化しています。しかしど

なに環境が変わっても私たちは入居者の居住支援を支える担い手として取り組んでいかねばなりません。これからのGHは専任の職員だけでなく、法人全体で支えていく必要があります。そしてこれまで以上に地域住民や他の支援機関など様々な人たちと手を携えていかなければならないと思います。



野地芳雄理事 表彰

多年にわたる精神保健
福祉事業の功績をたたえ

いつも法人を支えて下さっている野地芳雄理事が、公益社団法人日本精神保健連盟主催の第六七回精神保健福祉全国大会にて、精神保健福祉事業功労者として令和元年度の厚生労働大臣表彰を受賞されました。野地理事には法人設立時より多くのお力添えをいただき、今回の受賞は法人にとっても大変嬉しいニュースです。おめでとうございませう！



合唱団グラス 団員募集

なごやかサロンには、「グラス」という合唱団があります。合唱団に参加（団員として登録）されている方たちが、月1回程度（基本的に第3土曜日）11時～13時に集まり、講師の先生から指導受けながら、合唱の練習をしています。年に1、2回、うたごえと交流の広場等での発表もあります。現在、合唱団員を募集しておりますので、ご興味、ご関心をお持ちの方がおられましたら、ぜひ一度見学にお越しください。

お問い合わせ先：075-813-0504 なごやかサロン（表口）



京都市中部障害者地域生活
支援センター「なごやか」
中條 了

今号の巻頭言を読み、
『ベてるの家』の向谷地生
良さんが書かれたある一文
を思い出した。

金剛出版、二〇〇九年

（『統合失調症を持つ人の
援助論』向谷地生良・著

正直いって「障害者自立
支援法（現：障害者総合支
援法）」には、なんともい
いようのない「居心地の悪
さ」がある。（中略）そこ
には、国の責任を曖昧にし
たま「民活」に頼ってき
たわが国の精神医療の荒廃
と同じ構図が透けて見え
る。それは、本来は精神医
療体制が、精神障害を抱え
た人たちの治療や社会参
加を促進するためにあるべき
なのに、いつの間にか、そ
れが反転し「精神科病院を
中心とした精神医療体制を
維持するために患者は存在
し続ける」構図ができあが
り、その現状から脱しない
まま、同じ過ちを福祉にお
いても繰り返そうとしてい
ることである。

著書が出版されたのが一
〇年前。昨今、関係者の方
から「利用者が来ない」「
安定した利用につながら
ず経営が苦しい」という声
をよく耳にする。現行の制
度が「成果主義」により報
酬を得るシステムであるた
め、利用者の獲得と安定し
た利用が事業所の収入に直
結する。
精神障害を抱えた人たちが
社会との接点をつくるプ
ロセスは多様であり、時に
時間を要する。そのことが
現行のシステムでは評価さ
れにくく、時に利用者二
人とはかけ離れた実績が求
められる構図が出来つつあ
る様に感じる。



編集後記

皆様、こんにちは。今年
の冬は暖かくて過ごしやす
いです。個人的には嬉しい
です。二〇〇七年にも暖冬
だったようですがその年の
夏は猛暑だったそうです。
話は変わります。皆様や
サカタクシーさんの四つ葉
のクローバーの存在をご存
知ですか？車両台数が現在
一三〇〇台あるそうでその
うち四台のみが四つ葉タク
シーだそうです。乗車すれ
ば記念のカードがもらえる
そうで私の周りにも数名い
ます。良いことがありそう
です。割と有名なのでご存
知の方も多いと思います。
では二葉タクシーはご存
知ですか？二台しかあり
ません。これは上賀茂神社

の第四二回式年遷宮を記念
して運航が開始されたそう
です。二葉タクシーに乗車
するとレシートが頂けて上
賀茂神社で記念品と交換し
てくれるそうです。私も一
度しか見ていない超レアな
タクシーだと思います。期
間限定で丸丸さんのロゴが
入ったものやバレンタイン
の時期にピンクのクローバ
などもありました。ヤサカ
タクシーさんをみると無意
識に見てしまします。皆様
もヤサカタクシーさんを見
た際には四つ葉タクシーが
どうか確認してみてください
がでしょうか。発見すると
なんだかとても嬉しくなり
ますよ。（梅沢）

利用者大募集!!

就労 移行支援 就労 継続支援B型

京都市朱雀工房、西山
高原 工作所、ワークス
テーションかれん工房で
は上記の利用者様を募集
しています。お気軽にご
相談ください。

広報委員会 委員

中林 壮介（西山高原工作所）
中條 了（支援センター「なごやか」）
梅沢 信吾（ワークステーション かれん工房）
高橋 恒明（京都市朱雀工房）
中村 美恵（支援センター「なごやか」）
田上 嘉之（グループホーム 賀陽・山ノ内・光）

利用者と向き合い、寄り添い、共に考え、共に歩む そして誰もが人生の主役に



社会福祉法人 京都光彩の会

Social welfare corp KYOTO kosainokai.Inc

〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地 京都市地域リハビリテーション推進センター1F

TEL : 075-813-0501 FAX : 075-813-0520
URL : <http://kyoto-kosainokai.jp>



社会福祉法人京都光彩の会 光彩だより
発行：京都光彩の会 広報委員会
印刷：西山高原工作所